

[03_04]九州大学大型計算機センター広報 : 3(4)

<https://doi.org/10.15017/1467969>

出版情報 : 九州大学大型計算機センター広報. 3 (4), pp.1-56, 1970-08-26. 九州大学大型計算機センター
バージョン :
権利関係 :

ライブラリプログラムのサービス方法について

今まで、センターのライブラリプログラムはファイル（ディスクあるいはディスクバック）に登録され、プログラムの中でその引用をすれば、自動的に組み込まれる形でサービスしてきました。

今後、富士通提供のSSLのレベルアップ、また、新しくセンターあるいはセンターから委嘱された人により開発されたプログラム、あるいはセンターの利用者が提供したプログラム等の登録が行なわれる事が多くなるとは思われますが、その場合のサービスについて、センターでは以下に述べる様な方法をとることにいたしました。

プログラムは、登録される前にチェックされるのが原則ですが、完全なチェックを行なうのは不可能と思われます。

そこで、センターでは簡単なチェックを行なった後、プログラムをRBの形で登録します。（この場合、プログラムライブラリ委員会の審議を経て、運営委員会で登録の可否は決定されます。）

新しく登録されるプログラムは、一定の期間（原則として6ヶ月）を試用期間として、テスト用ファイルに登録されます。登録されたプログラムは、その都度、広報又はセンターニュース等で紹介いたしますので、利用者の方々には、どしどし使っていただきたいと思います。

尚、試用期間を終えたプログラムは、原則として、通常のライブラリ用ファイルに登録されます。次に、試用期間中のプログラムの利用方法について説明いたします。

(1) テスト用ファイルに登録されているプログラムを呼び出す場合は、コントロールカード

¥LIEDRUNのかわりに¥RBLINKGOを使い、パラメータにFLNAME=P.LIB.TESTを入れて使用してください。（なお私用ファイル共用ボリュームを使って、テスト用ファイル中のプログラムを呼び出される方は、センターまで申し出て下さい。）

その他は、原則として、他のライブラリプログラム（例えば、富士通提供のSSL）と同様、呼び出しプログラムの中から利用すれば、自動的に組み込まれます。

(例) ¥NO

 ¥QJOB

 ¥FORTRAN

<pre>CALL INPUTR(A) END</pre>

ソースプログラム

MAP, FLNAME=P.LIB.TEST

¥RBLINKGO

データ

〒J END

(2) 試用期間中のライブラリプログラムを使用して出た障害については、キャンセル処置をいたします。

既に述べました様に、テスト用ファイルに組み込まれたプログラムは、十分なチェックがなされている、という訳ではありませんので、障害が起こる可能性があります。利用者の方々に協力していただき、ライブラリの整備をしていきたいと考えていますので、テスト用ファイルのプログラムで、エラーと思われる事がありましたら、直ちに、センターに御連絡ください。

(3) ライブラリプログラムの利用結果は、できる限り、センターライブラリ室に報告してください。それらのデータを基にして、ライブラリの整備を行なっていきたいと思えます。

以上述べてきました様な方法でサービスする様にいたしました。現在、九大センターのプログラムライブラリは、極めて貧弱な内容で、まだまだ備えなければならないプログラムがたくさんあります。おいおい整備していくつもりではおりますが、人手が足りない事もあり、なかなか思う様にはかどりませんので、利用者の方々の御協力をお願いいたします。ライブラリプログラムとして登録すればよいと思われるプログラムをお持ちの方は、どしどし登録申請していただきたいと思えます。

現在、手続き等で、はっきりしない部分もありますが、今、遅ればせながら体制を整えつつあります。(次回の広報には、登録に関する手続き等についてお知らせする予定です。)

お気づきの点は、センターライブラリ室までお知らせくださる様、お願いいたします。

なお、現在、テスト用ファイルに登録されているプログラムがいくつかありますので、資料の欄にそのプログラムの紹介をいたします。なるべく多くの方々に使ってみていただきたいと思っています。